

松 柏 堂

松井昇画

山田行元譯

新撰小學地圖

定價四圓貳拾錢

全六幅

此圖ハ米國ステインワール氏著ミツチエルスニウ。アウトライン。マツ。プロト題スル者ヲ山田行元先生ノ譯シタル者ニテ全氏ノ編輯 **新撰地理小志** 等ニ適及 **新撰中地理書** 當ノ者ニテ各學校教員生徒ハ更ナリ苟モ地理学ニ志シアル諸君ハ必用ノ好圖ナリ

皇朝史略質問録

全三冊

猪野中行著 定價金一圓十錢
增補啓蒙正文章軌範
全六冊 續編近刻

該書ハ初学ヲシテ文章軌範ノ大意ヲ解セシムルニ在リ故ニ勉メテ童蒙ノ讀ミ易キヲ主トシ欄上諸家ノ評ヲ加ヘ且ツ其語ノ通曉シ難キ者ヲ解シテ卷末ニ附シ以テ讀者ニ辨ス故ニ江湖ノ学生專ラ此書ヲ愛看セハ一讀ノ下疑義氷解スルヲ得ベキ良書ナリ

續唐宋八大家文讀本

全七冊 正價壹圓五十錢

女子作文捷徑

全一冊

K630
Ta 26
2 (2)

續養蠶新論卷之二

上野 田島彌平 著

⑤ 蠶室建築ヲ改正セシ其原因ノ事

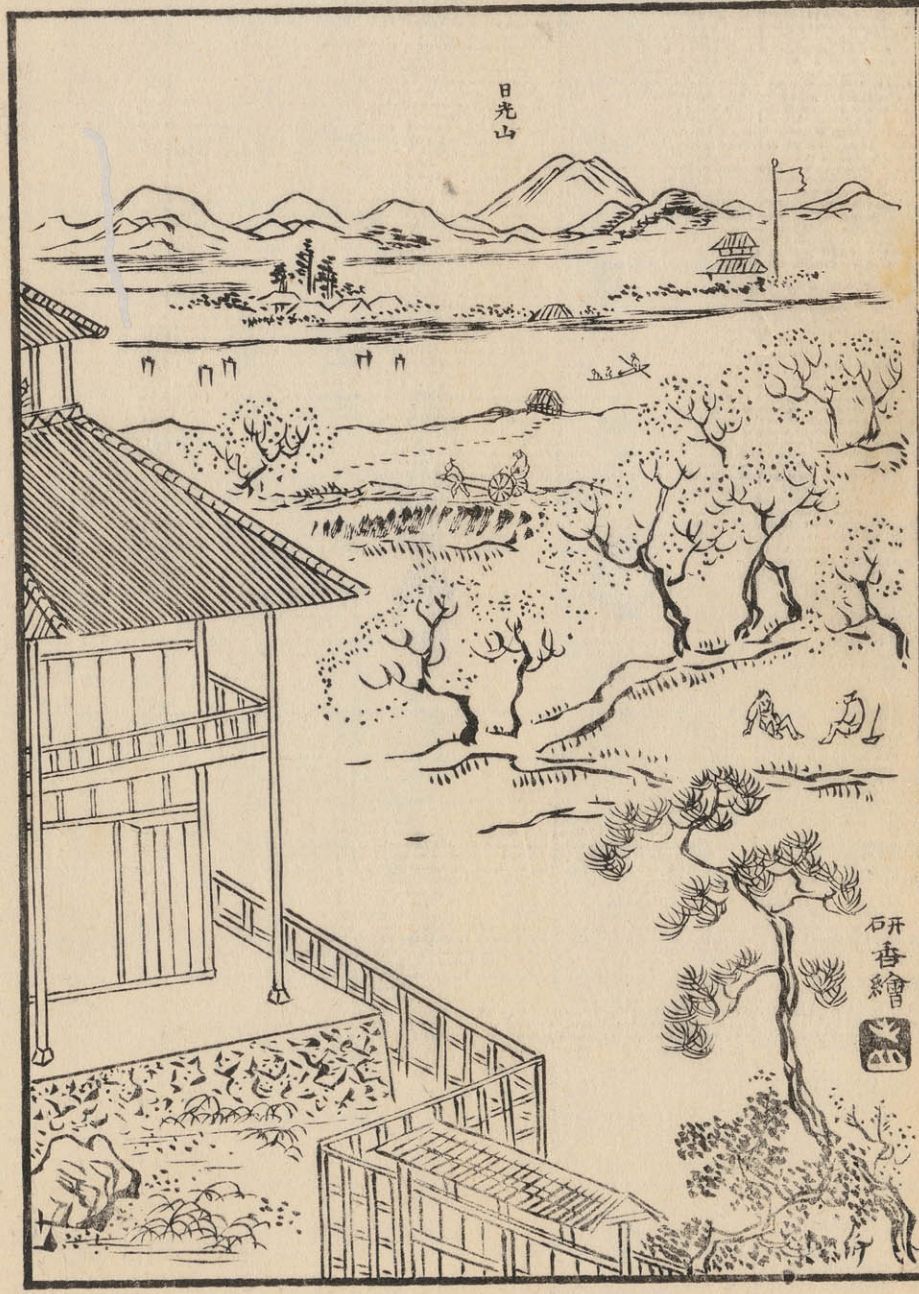
蠶室ノ設方ハ何レノ地方ニテモ、舊習ノ説ニハ茅葺家ヲ以テ第一等トシ板葺ハ之ニ次ギ瓦屋ハ又之ニ次グ者トシ殊ニ瓦屋ニテハ蠶不熟セシルモノト思フ弊習ナリシニ、予ガ家ニテハ父ノ幼年ノ頃火災ニ罹リ予ガ十五歳、春又火災ニ逢ヒタリ乃チ祝融氏ノ患ヲ免カル、ニハ、瓦屋ニアラズンバ救フノ術ナシト思ヘドモ、瓦屋ハ

養蠶ニ應ゼザルモノト覺ヘ來リシナレバ、養蠶
 フ業トスル者何シゾ下等ノ蠶室ヲ作ラシヤト
 頗ブル苦心ヲナセリ、蓋シ瓦屋ハ炎暑ノ時空氣
 鬱閉セル故ニ惡シキト云フナルベシ「安政丙辰
 年十一月瓦屋ノ納屋桁行十二間梁間四間ノ一
 棟ヲ建築シ其階上ニ相州邊ノ如クニ、平ラカニ
 筵ヲシキ、蠶ヲ並列ノ養育スルニ、稚蠶ノ最初ハ
 無事ニ生長スレドモ、大眠起ニナリ四五日ヲ過
 ギ成繭ノ期ニ至リ、竹ノ節ノ如ク、俗ニ節蠶トテ
 肥大ニトリテ、既ニマブシニ入ルレバ、流レ蠶ト

テ腐敗シテ繭ヲ成シビル蠶多カリシ故豫防ノ
 策ヲ考ヘ活物ハ空氣流動ヲ能クスルニ如カズ
 ト心付キ其翌歲屋上棟ノ中央、四尺ニ三尺ノ
 窓三箇所ヲ穿テ養蠶ヲ試験セシニ、果シテ腐
 敗蠶俗ニ節蠶ト云フ一頭モナカリシトリ、故ニソノ翌
 歲ニ至リ猶蠶室ノ階上四方ノ壁ヲ破リテ晝夜
 共窓戸ヲ明ケ放テテ養蠶セシニ、從前ノ患ヒ少
 シモナク悉ク豐熟セリ、之レニ由テ蠶室ヲ改正
 セシトテ謀リ、加フルニ養蠶ノ適宜ニハ屋上ノ
 棟ノ一重高ク圖ノ如クセシトテ考ヘ、文久壬戌

ノ年八月ヨリ瓦屋ノ經營ヲ始メ、屋上ニ窓戶ヲ設ケテ三階トシ專ラ空氣流通自在ナラン事ヲ計レリ、居宅ノ二階モ養蠶ニ便利ナル一工夫ヲナシ一大蠶室ヲ建築セリ、一郷ノ蠶家モ亦皆之レニ倣フテ改正ス、斯ノ如ク改正セシヨリ以來ハ他ノ養蠶ハ氣候ノ變化ニテ不熟スト雖モ、余ガ方法ヲ以テ養ヒタルニ於テハ何ノ患ヒモナシ、乃チ知ル蠶室ノ造營ハ空氣凝滯ナキヤウニ心ヲ用ユルヲ以テ第一ノ目途トスベキヲ、近來上野武藏利根川ノ兩岨余ガ郷里邊ニテ養蠶

ヲ業トスルモノ住居或ハ蠶室ヲ造營スルニハ圖ノ如ク上等ノ蠶室ハ瓦屋トシ棟ヲ通シテ空氣流動ノ爲メニ窓ヲ明ク、中等下等ハ家根ノ大小ヲ計リ一箇所ノ抜氣窓ヲ付ルアリ或ハ二箇所三箇所窓ヲ穿ツアリテ、屋上ニ窓戶ナケレバ、村々戸々蠶室トハ思ハザル事ニナリ、特ニ兩三年以來ハ棟ヲ通シテ抜氣窓ヲ付タル瓦屋ヲ上等ノ蠶室トスル說ニ確定セリ、此ハ今ヨリ十四五年以前、余ガ發明經驗セシヨリ實ニ始レリ、元治甲子年余ガ郷友栗田源十郎ナル者、養蠶ニ



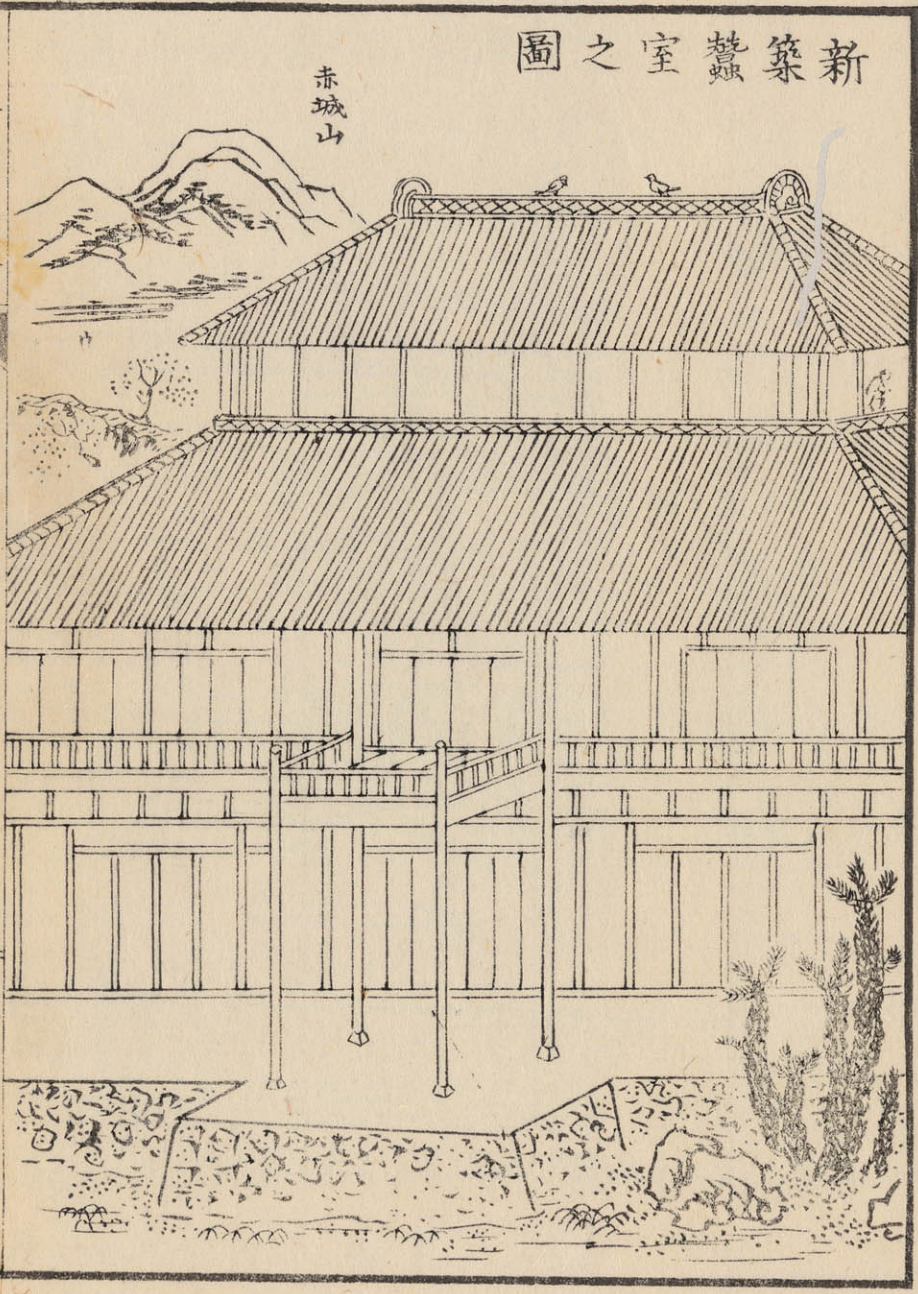
日光山

研香繪

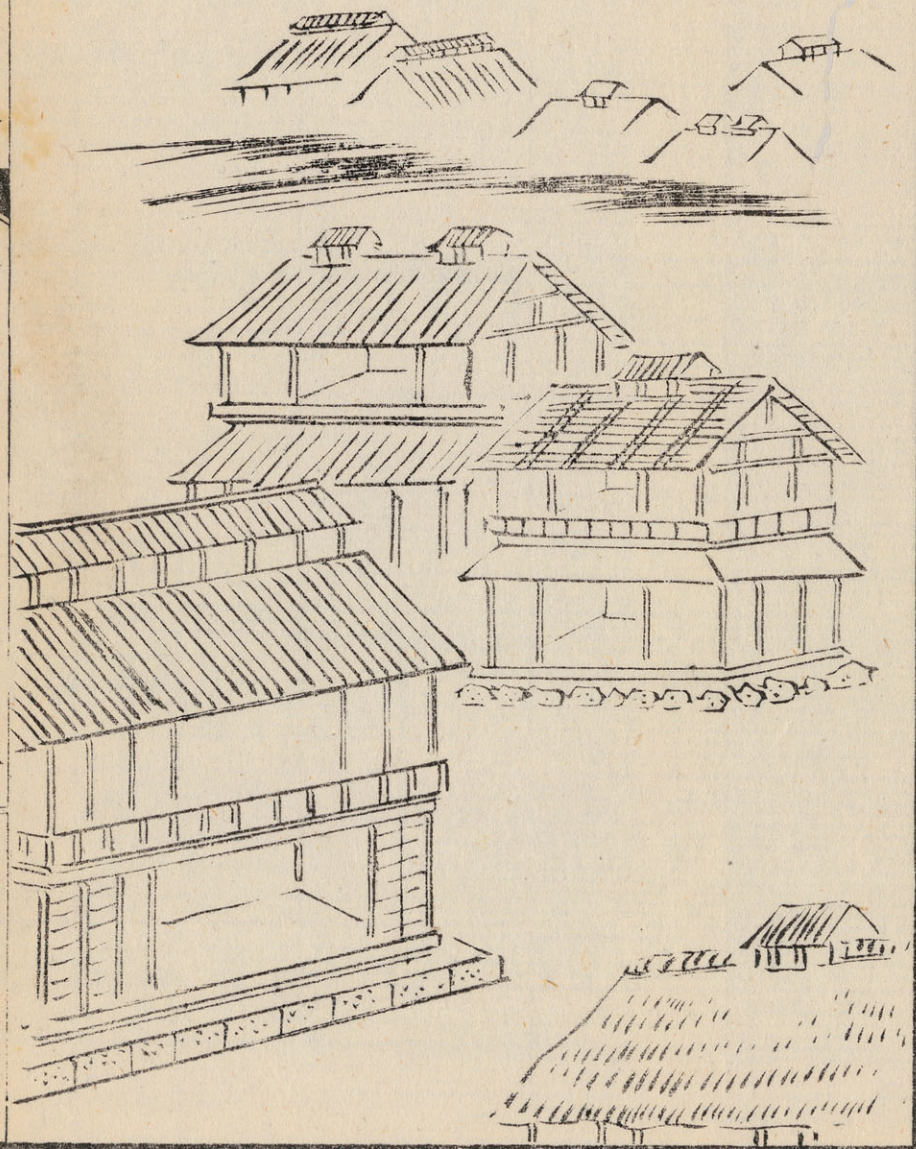


新築蠶室之圖

赤城山



蠶村家屋之圖



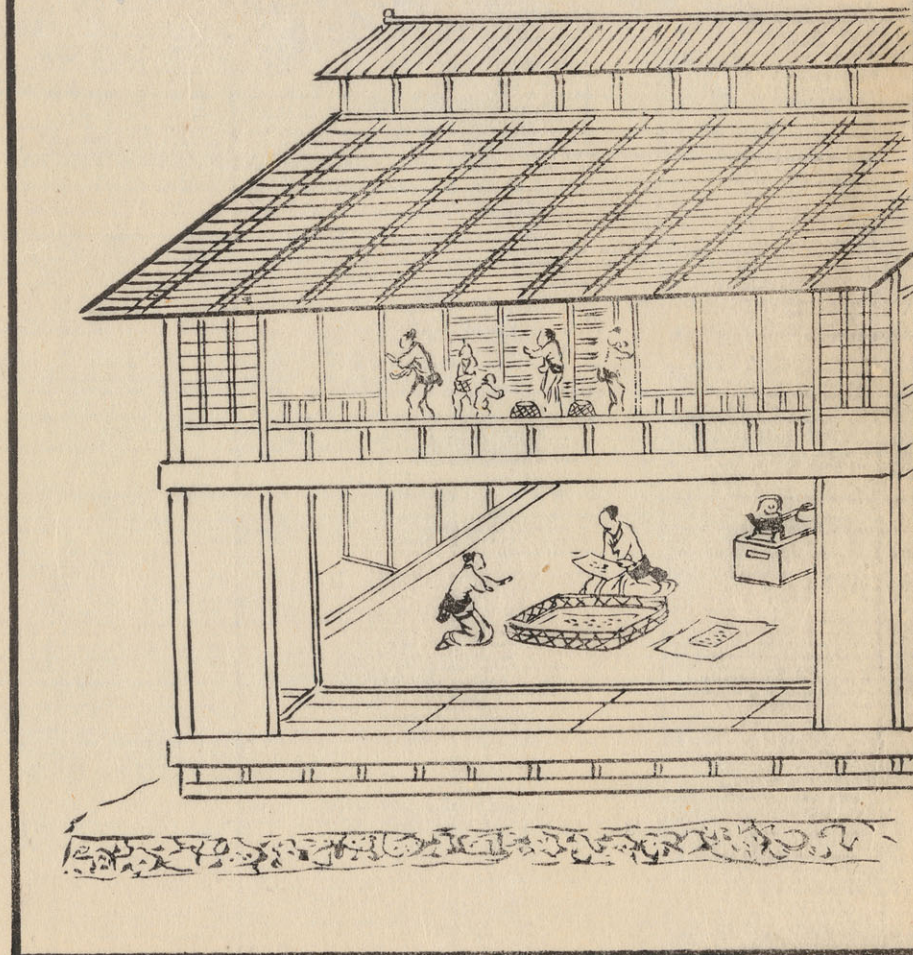
高家莊新論

卷三

五

桑柘園耕種

上毛板屋蠶室之圖

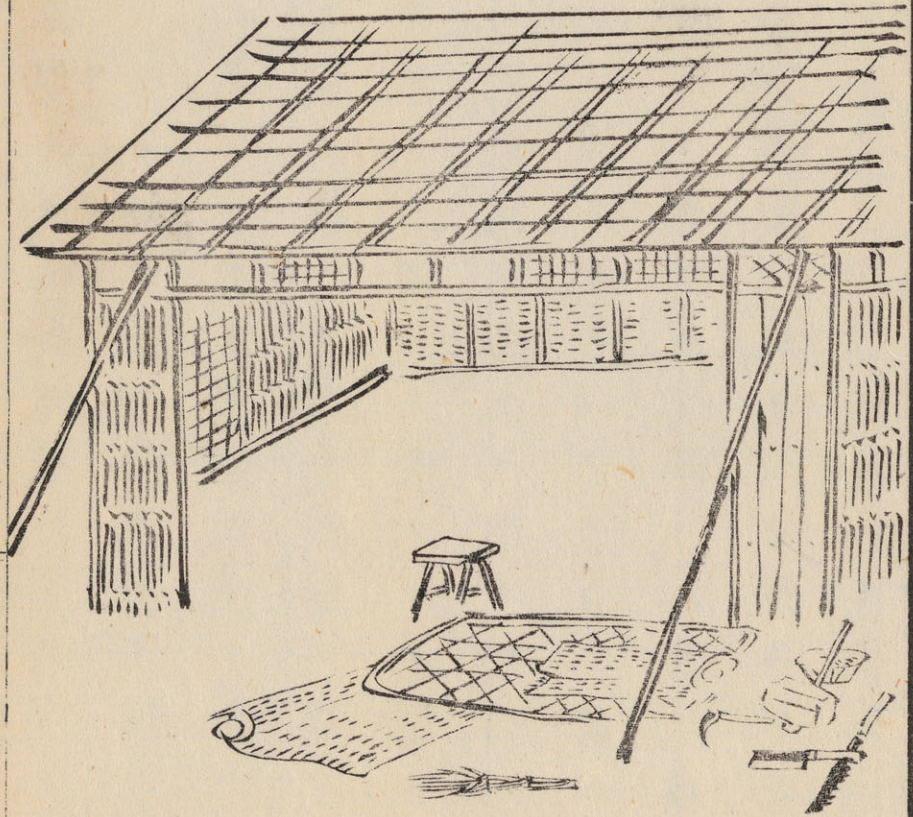


續看蠶新論

卷三

桑柘園耕種

蓬蓆室之圖



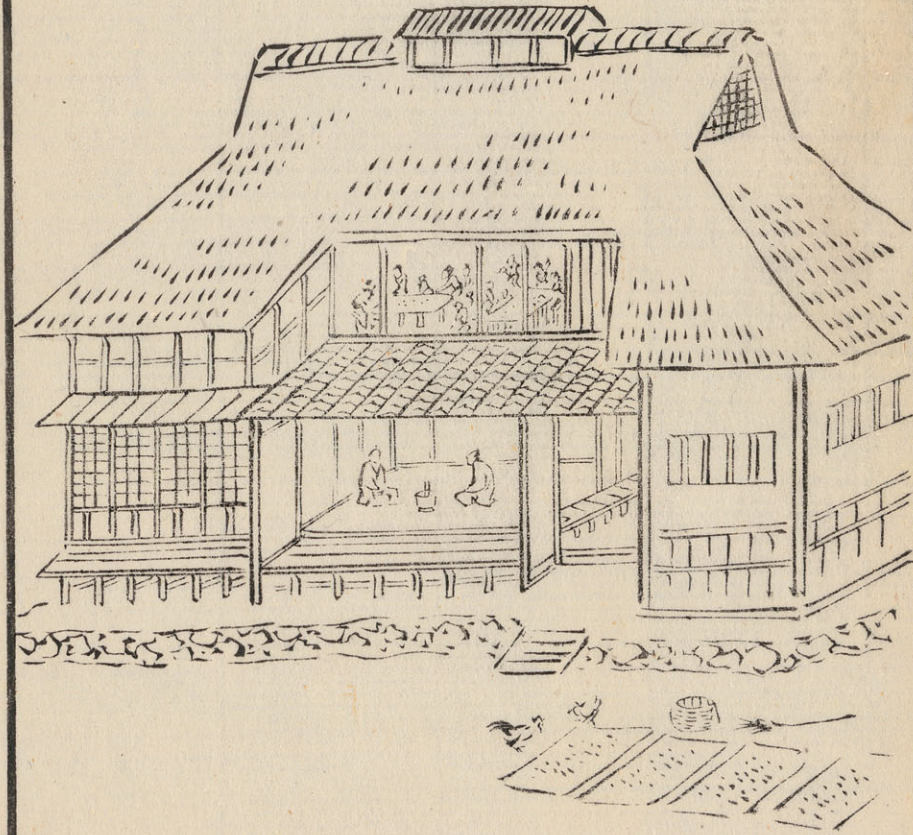
讀書室

卷二

六

梁石園

蘇村茅舍之圖



蘇村茅舍

卷二

蘇村茅舍

從事勉強ニ利根川ノ寄洲ヲ開懇シテ桑田トシ
之レヲ培養スルニ、果シテ能ク繁茂セリ因テ蠶
發生ノ期ニ至テ桑アレドモ、蠶室狭少ナレバ此
桑ヲ如何ヤント余ニ語レリ、乃チ經驗ノ爲メニ
俗ニ所謂掘リ立テ小屋ナルヲ營ナミ養蠶ヲナ
スベシト答ルニ、栗田氏モ之レニ倣テ桁行八間
ニ梁間四間ナル一棟ヲ繩ヲ以テ造立シ蠶ノ二
眠起ヨリ蠶ヲ移シテ養フニ、其年ハ養蠶ノ項霖
雨ニテ濕氣甚シク蠶糞モ乾カズ、日數モ住居ニ
テ養フタルモノヨリ三四日モ遅引シ、前後五十

餘日ニ至リテ、熟蠶スレバ、何ノ患ヒモナク、却テ
上等ノ蠶ヲ收納セリ、殊ニ蛾ノ分方モ多ク、蠶種
モ高價ニ賣捌キ、多分ノ利益ヲ得タル事アリ、蠶
ノ空氣ヲ以テ好シトスルハ此一事ニテモ知ル
ベキナリ、右ノ如ク蠶室ヲ改正セシヨリ、毎歲養
蠶健全無事ニ豐熟セル故ニ、所謂徳不孤必有鄰
ノ理ニテ、鄰家ヲ始メ、遠近ノ諸村養蠶有志ノ輩
蠶室ヲ改正シ、新築ノ蠶室ヲ營ナムニハ、必ズ屋
上ノ中央ニ抜氣窓ヲ開キ、兩面ニ戸ヲ付新鮮ノ
氣候ヲ以テ養フ事ニナレリ、又活物窮理ニ心ヲ

用キザル者迄モ、蠶室ニハ氣抜ノ窓ヲ置ク筈ノ
モノト覺ヘシハ、帝ニ余ガ發明ノ功ノミナラズ
誠ニ造物者ノ妙ト云フヘキナリ

養蠶發生ノ期節ニ切迫シ、火災ニ罹リシモノ、蠶
室ノ造營漸ク養蠶ノ間ニ合フタルモノナド、蠶
室ニ應ゼザル程ノ多量ナル養蠶セシ者ヲ數回
經驗スルニ、何レモ養蠶不熟セシナク、豐穰セ
リ、殊ニ蠶ヲ籠ノ中ニ厚ク飼フテ平常ノモノヨ
リ既ニ倍セリ、蠶ハ厚ク飼養セバ必ず不作セル
筈ナレドモ、却テ無病壯健ノ蠶ヲ收納スル者多

シ、按ズルニ蠶ニ適意ノ氣候ナラザレバ豐熟ス
ル理ハナキニ火災ノ爲メニ樹木ヲ伐リ盡シタ
ル地ニ蠶室ヲ營ミシ故ニ養蠶豐穰セシモノト
見ユ、活物ニ新鮮空氣ノ宜シキ一是等ノ事ヲ以
テ亦知ルベシ、

⑥ 養蠶ハ家屋ト人員ト適當ノ量ヲ定ムル
ヲ肝要トスベキ事

養蠶ヲ業トセル者、蠶室ト器械ト人員ト蠶種ノ
分量トヲ定ムルヲ第一ノ目途トスベキナリ是
ハ養蠶ノミニアラズ、活物ヲ養ヒ且ツ物品ヲ製

スルト雖モ、本ヲ立ツル事ナレバ、最モ心ヲ用ユ
 ベキナリ、縦令バ耕作ヲナスニモ一段歩ノ畑
 ヘハ、一段歩ノ種ト肥ト適宜ナルトキハ相應ノ
 收納モナスベキニ一段歩ノ畑ヘ一反五畝歩ノ
 種ヲ蒔キ付肥糞不足スレバ必ズ不作スルナリ、
 殊ニ豊凶ノ多キ養蠶ナレバ、最モ量ヲ定ムル
 肝要ナリ、
 蠶室ハ桁行二十五間、梁間六間、亦ハ十七間ニ五
 間ナル者ヲ第一トス、
 桁行十三間、梁間六間、桁行九間、梁間五間ナル者

ヲ第二トス、

桁行八間、六間、四間、梁間ハ二間半、三間、四間ナル
 ヲ第三トス、

人員ハ蠶種一枚ヲ養フニハ、四人ヲ上等トシ、三
 人ハ中等トシ、二人ヲ下等トス、亦一人ヨリ以下
 ナレバ精良ノ品ヲ製スルヲ難シ、

⑨ 蠶種發生ノ好惡ニ由リテ蠶種ノ精粗ヲ
 鑒別スル誤リノ事

附言

信州風穴ニ貯置シ蠶種ヲ經驗セシ事

蠶既ニ化蛾トナリ、蠶種ノ産出セシ遅速ニ由リテ、來歲蠶ノ發生モ亦産出遅速ノ如ク早ク産出セシハ、前ニ發生シ、遅ク産出セシモノハ、後ニ發生セルモノト思フモノアリ大ナル謬リナリ、假令バ五月ノ始ニ産出セル蠶種モ、六月七月ニ産出セル蠶種モ、夏蠶再出前編蠶ノ事ナリナドノ種類、八月ニ至リ産出セル蠶種ニテモ、翌歲發生ノ期ニ至リ、同室ニ蠶種ヲ掛ケ置ク片ハ必ス、同時ニ發生セルモノナリ、是ハ疑フベカラザルモノナリ、蠶種發生ノ遅速ハ種ノ好惡ニ由リテ精粗ヲ區別セル説ナドヲ信ズルモノアリ、惑ノ甚シキ者ト謂ベキナリ、

又早ク産出スル蠶種ヲ寒冷ナル室ニ掛置キ、遅ク産出セル者ヲ暖室ニ掛ケ置ク片ハ必ズ早ク發生スルナリ、予幼年ヨリ是等ノ事ハ數回試験アリシ事ナリ、殊更養蠶ニ從事セル者ハ假令婦女子ト雖モ知り得タルトナリ、

近世伊太利亞人佛蘭西人等、横濱ニ於テ蠶種巨萬ヲ購求シテ、彼國ニ至リ、發生ノ好惡アリト聞ク好ク發生セルヲ精良ナルモノトシ、發生ノ惡

レキヲ粗惡ナルモノト覺ヘテ、昨年買取リシ蠶種發生アレケレバ、今年其出穀ノ原紙ヲ持來リテ斯クノ如ク發セザルトテ、蠶種ノ善惡ヲ悉ク論ズルハ、衆人ノ能ク知ル處ニシテ、實ニ愚論ノ太甚シキ者ナリ

按ズルニ蠶種運輸ノ節、荷造リトテ箱ニ二百枚入り、或ハ三百枚入り位ノ箱ニ、雙方亦ハ四方ニ二三寸四方ノ穴ヲ切ヌキ、木綿切レ又ハブリツキニ



圖ノ如キ小穴ヲアケタルヲ打付ケテ箱ノ中ニハ蠶卵一枚ヅ、並列シ、種ト種ノ間々

ノ少シモ付カザルヤウニ、箱ニ應スル梓ヲ造リ、空氣ノ自在一箱ノ中ニ流通セル手當ヲナシテ、種ヲ收メテ、アンペラニテ包ミ船ニ積入ル、ナリ、斯クノ如ク氣候ノ通ズルヲヨシトシテ運輸セル故ニ、印度地方ヨリ地中海ノ邊ニテ、炎熟ノ爲メニ蠶發生ノ氣ヲ催シ、夫ヨリ伊太利亞佛蘭西ノ平和ナル氣候ノ地ニ至リシ故ニ、却テ蠶種ヲ損害スルナリ、我日本ニテモ立春ノ頃不時ノ暖氣アリテ蠶種ニ發生ノ氣ヲ催シタルヲ、寒冷ノ地ニ移セシナドニテ、發生ヲ妨害セルト儘ア

ルナリ是ニ由テ之ヲ考フレハ、外國ニ至リ發生
ノ惡シト云フハ一理無キニシモアラズ、然ルヲ
蠶種ノ粗惡ト云フハ、其理ヲ解サヅル言ナリ、我
國ニテハ如何ナル粗惡ノ蠶種ニテモ、發生ノ惡
シキナド云フヲ更ニナシ、且彼ノ國ヨリ發生ノ
惡シトテ持チ來リシ原蠶紙ノ出穀紙ヲ見ルニ
我國ニ於テ蠶種ノ發生ニ害ヲ受タルモノト、毫
モ差異アルヲナキヲ以テ此理ヲ了解スベシ、
蠶種ヲ貯フルハ前編ニスデニ説キタル如ク風
土ニヨリテ發生ノ適宜ヲ考へ、例年ノ貯方ハ人

々大同小異ニテ種ノ貯方ハ各地方ニ由リテ偶
タマ異説モアレドモ、其地ノ氣候ニ應ズルヲ考
ヘテ貯置クトキハ、決シテ害ナキナリ、予ガ説ニ
テハ種紙ノ雙方ニヒモヲ付ケテ丸クナシ、箱ニ
收ムルヲ法トセシナレドモ、蠶卵トナリテハ外
ノ氣ヲ受ケザルウチハ、如何様ニ閉塞ストモ發
生ノ氣ヲ含マザレバ、更ラニ害ナキモノナリ
武州秩父郡ノ山村ナドニテ、朝暮トモ陽氣ヲ受
ケル暖氣ノ家ナドハ、種ヲ貯フルニ種箱トテ種
ニ應ゼザル程ノ大ナル箱カ、穀物ナド貯フル箱

ニ大豆小豆ナドヲ三寸モ入レテ、其上ニ種紙一
 枚ヲ置キ、亦其上ニ大豆ナリト小豆ナリト二三
 寸ヲ置キ、段々ト幾枚ニテモ、穀ト種トヲ恰好ニ
 間タヘ挿ミ、空氣ノ入ラザル様ニ密封シ、濕氣ナ
 キ倉庫カ、又ハ寒氣ナル室ニ外氣ノ通ゼガルヤ
 ウニ貯置、春分ニ至リ其地ノ養蠶ニ應ズル節ヲ
 考ヘテ、種ヲ取出シ、催青ヲ待チテ發生サスルニ
 毎歳毫モ損害アルトナシト云フ、
 明治五壬申年二月信濃國筑摩郡上神林村一條
 磋五郎ナル者、予ト共ニ官ヨリ蠶事事務ノ命ヲ

蒙リ東京旅店ニ四五日間同宿ス、暇アレバ談
 養蠶ノ事ニ及ベリ同國安曇郡搦核村前田喜三
 郎ノ地内山ノ半腹ニ石室アリテ、常ニ風氣ヲ吹
 出ス、土俗之レヲ稱シテ風穴ト云フ、此風穴ハ寒
 氣烈シク、夏日土用中ト雖モ、寒冷ニシテ腐敗ヤ
 スキ物ナド貯フルニ、寒中ノ如ク少シモ損傷ス
 ルトナク、實ニ妙ナリト云フ、近頃此ノ石室ニ蠶
 種ヲ貯置キ、春蠶一度養ヒ終リテ後、又風穴ヨリ
 採リ出シテ、養蠶ヲナクニ、前ノ如ク春蠶ニ少シ
 ト劣ラザル繭ヲナスト云フ、殊ニ夏日ニ繁茂セ

ル桑ヲ以テ養フ故ニ、蛾ハ十分ニ發シ、如何ニモ奇ナリト云ヘリ、余其奇ナルヲ聞テ蠶種ヲ貯フル所以ヲ問シニ、近來開港己來養蠶繁殖スルニ隨ツテ、四五年來追々盛ンナリト云フ、因テ本年其貯ヘ置キタル原蠶種ヲ我ガ鳥村ニ持テ來リ經驗セシメテ約シテ辨訣ス、會博覽會事務局ヨリ養蠶試驗トシテ南部陳宮本三平、兩氏我ガ鳥村ニ來リ、數十日留滯シテ養蠶ノ發生ヨリ蠶種製造ノ始末、桑柘ノ培養ノ方法、地質精粗ノ條理ニ至ルマデ悉ク試驗セラレシ故乃チ南宮ニ

子ニ面謁シ彼ノ信州風穴ニ貯置キ土用ノ節ニ至リ春蠶ヲ養フノ奇事ヲ語ルニ、二子蠶事一關スル者ナラバ、速ニ原種ヲ持テ來リ、試験イマスベシトノ言ニ由リ直ニ彼ノ地ヘ人ヲ差遣シ、風穴ニ貯フル蠶種ヲ取寄セシニ其量僅ニ全紙四分ノ一ヲ有セリ、其蠶種ヲ檢查スルニ、少シモ催青ノ色ナシ、後チ三四日ヲ過ギテ發生ス、由テ其試験表ヲ左ニ録ス、

風穴貯種試験表

全蠶種ノ四分ノ一

目方三文目五分

發生、虫數
 毛蠶 一千頭
 同 二千五百頭
 同 五月二十頭
 同 六月十日發生口
 同 同月同日發生口
 同 同月十一日發生一口

一千頭口試驗

十三日全	十二日全	十一日全	六月十日快晴	日誌	晴雨	寒	暖	養桑數	虫量	桑分量
夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	八度		
八八七	七七八	八八七	八八七	八八七	八八七	八八七	八八七	九度		
十十十	十十十	十十十	十十十	十十十	十十十	十十十	十十十	十二度		
二二四	八一七	三三五	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	十一度		
度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	十一度		

十四日全	十五日全	十六日全	十七日全	十八日全	十九日全	二十日全	廿一日全	廿二日全	廿三日全
夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝
八八七	七七八	七七八	七七八	七七八	七七八	七七八	七七八	七七八	七七八
十十十	十十十	十十十	十十十	十十十	十十十	十十十	十十十	十十十	十十十
二二四	八一七	三三五	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二
度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度
十一度	七度	六度	八度	九度	八度	九度	九度	十一度	九度
午前四時頃 獅子ニ休ム	十頭ニテ二厘 獅子起 九百八十六頭	午前八時鷹ニ休 十頭六リ	鷹起桑付ル 九百八十五頭			十頭ニテ三分	午前九時 船ニ休ム	船起 九百八十五頭	

廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	七月一日	二日	三日	四日
快晴	全	全	全	全	全	全	全	全	全
夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝
八八七 十十十 十一五七 度度度	八八七 十十十 十二七五 度度度	八八七 十十十 十三七五 度度度	八八七 十十十 十四七五 度度度	八八七 十十十 十五七五 度度度	八八七 十十十 十六七五 度度度	八八七 十十十 十七七五 度度度	八八七 十十十 十八七五 度度度	八八七 十十十 十九七五 度度度	八八七 十十十 二十七五 度度度
八度	八度	九度	八度	五度	五度	五度	七度	六度	五度
	庭休十頭ニテ 一匁九分五厘	庭起 九百八十五頭		庭起三目 三頭減ス	五目十頭 九匁三分	熟蠶十頭 五匁九分五厘			

五日	合計二十五日	繭	二千五百頭口試驗	日誌	十日	十一日	十二日
全		三百五十五匁		晴雨		全	全
夜夕晝朝		但ニ九百五十一粒		寒暖	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝
七八七 十十一 八度度		內 小繭 九百十二粒 玉繭 二十六粒 但ニ二粒 屑繭 十三粒 外ニ 五粒 腐敗ス		養桑數	七八七 十十十 二三四六 半度度度	八八七 十十十 二四二四 度度度	八八七 十十十 二四 度度度
三度	百九十六度十八頭損ス			虫量	九度	十二度	十一度
今年前十時ニ 九百八十二頭熟ス				桑分量			
	桑ノ入用ハ次ノ表 比較ニ知ルニ				百十六匁二分	百四十二匁三分	百〇三匁九分

廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	七月一日	二日	三日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝
七八七 十十十 五度 度半度	七八七 十十十 五度 度半度	七八七 十十十 五度 度半度	七八七 十十十 五度 度半度	七八七 十十十 五度 度半度	七八七 十十十 五度 度半度	七八七 十十十 五度 度半度	七八七 十十十 五度 度半度	七八七 十十十 五度 度半度	七八七 十十十 五度 度半度
九度	九度	八度	九度	五度	五度	五度	八度	六度	六度
虫數 二十四早頭	庭ニ休ム	庭ニ起ル 桑付ル						三十頭口引始 簇ニ入ル	全九百頭
一貫五百十日	一貫六百八十五分	一貫百十二分	一貫百二十五分	二貫八百三十五分	三貫五百四十分	四貫七十目	四貫百九十目	五貫九百五十分	二貫四百目

續養老新詔

卷二

十七

桑柘園成版

十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝
七八七 十十十 八度 度半度	七八七 十十十 八度 度半度	七八七 十十十 八度 度半度	七八七 十十十 八度 度半度	七八七 十十十 八度 度半度	七八七 十十十 八度 度半度	七八七 十十十 八度 度半度	七八七 十十十 八度 度半度	七八七 十十十 八度 度半度	七八七 十十十 八度 度半度
八度	十一度	七度	七度	八度	七度	九度	九度	九度	十一度
	獅子ニ休ム	起蠶ニテ桑付ル	鷹ニ休ム	鷹ニ起桑付ル				船ニ休ム	船ニ起ル 朝ヨリ桑付ル
二百十四分	百七十一分四分	百八十三分	二百三十八分	二百十六分	三百七十八分	五百七十二分	七百五十七分	七百六十三分	一貫百六十五分

續養老新詔

卷二

桑柘園成版

續養蠶新論

卷二

桑林園

合計二百	六日全	五日全	四日全
	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝
	八八七 十十十 十一七 度度度	七八七 十十十 十一一 度度度	七七八 十十十 十一一 度度度
二百。四度	三度	六度	六度
都二千四頭減ス	全四十二頭	全三百五十頭	全千頭
三四百十八二分 頭付十四分八厘茶	三十六分	百八十二分	八百十分

繭 八百九十五分

内 小繭 二千二百粒

玉繭 百。二粒 是八二頭ノ入ルナリ

屑繭 二十粒 外 二十四頭減却ス

五千六百頭試驗

日誌	晴	雨	寒	暖	養桑度數	虫量	桑分量
十一日	快	晴			十二度	五十百二十頭 俱五分ノ余	百三十三分七分
十二日	全				八度	一籠トス	百十三分五分
十三日	全				九度		二百三十二分七分
十四日	全				十一度	二籠トス	五百二十二分
十五日	全				七度	獅子ニ休ム	三百四十八分
十六日	全				八度	全起桑付ル	四百五十八分
十七日	全				八度	三籠トス	八百二十三分
十八日	全				八度	鷹ニ休ム	七百二十分
十九日	全				七度	全起桑付ル	一貫百三十分

養蠶新論

卷二

十八

桑林園

續養正錄
卷二

廿九日	廿八日	廿七日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	二十日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝
七十七 十 五	七十七 十 六	八十九 十 四	八十八 十 七	八十八 十 五	八十七 十 五	八十七 十 四	八十七 十 三	八十七 十 三	八十七 十 四
度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度
五度	七度	十度	十度	十度	九度	九度	十度	九度	九度
		全起桑付ル	庭ニ休ム	五十六百頭	八籠トス 一籠ニ七百入	全起桑付ル	船ニ休ム	五籠トス	
八貫目	八貫八百八十目	六貫五百目	三貫八百五十五目	四貫二百八十目	五貫五百六十目	三貫。五十目	一貫八百六十六目	二貫。二十目	一貫五百三十五目

七月一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	合計二十六日
全	全	全	全	全	全	全	
夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	夜夕晝朝	
七十七 十 二	七十七 十 一	七十七 十 一	七十七 十 一	七十七 十 一	七十七 十 一	七十七 十 一	
度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	度度度	
五度	五度	八度	六度	六度	六度	三度	二百。五度
		口引始ル	熟蠶十頭 七奴四分五厘	大引 簇ニ入ル	大引	不殘簇ニ入ル	
八貫九百目	七貫五百八十目	八貫九百五十目	三貫七百十五目	一貫三百十五目	三百三十八目	四十目。七分	八十貫。八百五十五目 二頭ニ付桑葉 十四奴四分四厘二毛

繭 一貫九百十奴
内 小繭 五千。八十二粒

續養正錄 卷二 十九

玉繭 二百十五粒 但レ二粒ツ、入ル

屑繭 五十二粒

外ニ 三十六頭蠶數ヲ改メ後損傷ス

右ノ如ク、三口ニ分チ、養蠶セシニ、發生ノ日ヨリ、一滴ノ雨露ナク、炎暑烈シク、春蠶ヲ養フヨリ、繁忙ナレドモ、如何ニモ無事壯健ナリ、殊ニ繭モ大ブリニシテ、一升ニ二百八十粒程ツ、入リテ、春蠶ニ少シモ異ナルヲナク成繭セリ、且ツ暑中繁茂セシ桑ヲ以テ養フタル故ニ、蛆一ツモナク、残ラズ發蛾シ蠶種三十二枚ヲ製造ス、其内二枚ヲ

官ニ奉ジテ、出品トセリ三十枚ハ養蠶家數輩ヘ分與シ、原蠶種トナサシメ經驗スルニ、翌歲違蠶セシモノ一人モナシ是ニ由テ之レヲ考フルニ、蠶種貯方ノ好惡ニ由リテ蠶ノ豊凶アル事顯然タレバ、精良ノ蠶種ヲ損傷セザル様風土氣候ニ應ズル節ヲ考ヘテ貯置クハ肝要ナリ、亦運輸ナドハ其理ヲ以テセザレバ必ズ害アルト知ルベキナリ、

①桑ノ落葉ヲ貯置キテ蠶ノ眠起ニ糞ヲ替ルトキ用ユルハ惡シキ事

蠶糞ヲ替ルニハ前編ニ既ニ論ゼシ如ク、
 糞ノ上ヘ掛ケ桑ヲ與ヘテ蠶糞ヲ替ルヲ好シト
 スルナリ、然レモ初冬ノ頃、毎歲桑ノ落葉ヲ採リ
 乾カシテ細カニナシ、篩ニテ通シ貯置キテ、
 糞ノ如ク用ユルニ勝ルトテ、蠶糞ヲ替ルニ
 糞ノ如ク用ユル者儘亦之レアリ、按ズルニ
 蠶ニ青葉ヲ與ヘシ上ニ、乾キタル桑葉ヲ交
 ユル故臭氣ヲ醸シ、終ニカビレノ出ヅル
 モノナリ、害ハアルトモ効アルトモハ決
 シテナキ筈ナリ、蠶ハ桑葉ニアラザレハ
 生育スルコトナシ、縱令乾葉ニテモ桑葉ナ

レ 蠶ノ好ムモノト思フヨリ誤リシト
 ルマシ、
 蠶 都テ乾クコトヲ好シトスルナレバ、
 蠶糞ヲ替ルハ、
 糞ヲ以テ最モ好シトスルマキ事ナリ、
 ⑤ 養蠶ニ南風ハ害アリ、西風ハ
 障碍ナキ事、養蠶發生ヨリ熟蠶ノ期マデニ
 我上毛地方ニテハ西風烈シク吹クコトアリテ
 養蠶ニ損害アラント衆人恐怖シ、
 蠶室ヲ閉ヂ、或ハ温火ヲ用キテ、
 苦心スル者比々皆是ナリ、此レ又窮理ヲ知ラザル
 者ナリ、如何トナレバ上毛地方ハ西風吹バ寒氣
 ハ増ストモ、天然ノ氣候ナレバ却テ腐敗氣ヲ豫

防スルノ効アリテ敢テ蠶ヲ害スルト云フハ
 アルマジキナリ、亦南風烈シク吹ケハ、暑氣盛
 ニナリ、寒暑針ノ八九十度ニ至ルトキハ桑ノ養
 度ヲ増シテ養フトモ防禦スベカラザル、災害
 アリ、且ツ蠶ノ桑ヲ能ク喫フ故ニ氣候ノ變化ノ
 爲ニ蠶ノ腐敗スルノ理ヲ了解セザル養蠶家ニ
 於テハ知ラズ識ラズ蠶ニ病ヲ醸シ、終ニ違作ノ
 基ヲナスモノアリ、相州地方ニテハ蠶室ニ上毛
 邊トハ異ナリテ、俗ニ平ヲ飼ト云フテ、二階或ハ
 三階ニ蠶ヲ平ラカニ敷キ並べタル儘ニテ養フ

ナリ、窓戸アレドモ但明カリヲ引ク爲ニ設ケ置
 クバカリニテ、氣候ノ運動甚宜シカラズ、如何ニ
 モ鬱閉セル蠶室ナレバ、南風三日間吹トキハ、一
 圓ニ養蠶腐敗スルノナドアリテ養蠶ヲ業トス
 ル者ノ患フル所ナリ、殊ニ今ヨリ二三十年以前
 ハ南風吹ケバ必ず違作スルモノトス、近世人々
 蠶ノ腐敗スルノ理ヲ知テ、一圓ニ違蠶スル者希
 ナリ、亦西風三四日續テ吹バ、寒冷ナレドモ寒氣
 ノ爲ニ養蠶ヲ害スルノ少シ、但西風ニテ寒氣烈
 シケレバ桑葉ニ霜災ヲ受ルノアルノミ、之ニ依

ツテ南風ハ養蠶ニ害アリ、西風ニハ障碍ナシト云フ、推シテ知ルベシ、

⑤酒ヲ蠶ニ與フル得失ノ事

蠶ニ酒ヲ與ヘテ効アル事ト思フ者アリ、殊ニ蠶書ナドニモ其効アル説アレドモ養蠶ハ濕氣ヲ忌ミ且ツ蒸氣ノ閉塞スルヲ惡シキト云フ、ハ、養蠶地方ニテハ少年婦女子モ能ク知ルトコロナリ、養蠶中五月雨ノ頃ナドハ、桑其外器械ナドニ酒氣が觸ルレバ直ニカビノ出ルモノトリ、故ニ害ハアルトモ、効ノアルトハ毫末モアルコト

キナリ予が家ニテハ素ヨリ蠶ニ酒ヲ與ヘシ事ハ無ケレドモ、先人ヨリ養蠶ヲ誤マリシト決シテナシ、世間ニテハ酒ヲ與フレバ豐熟セルモノト覺ヘテ、蠶ノ眠起ナドニハ頻リニ酒ヲ與フル者アリ余嘗テ親カラ其利ヲ經驗シテ、後人ノ一助ニ供セント欲シ試シニ桑葉ニ酒ヲマリテ蠶ニ與フルト兩三度ニ及ベリ、尙時蠶桑ニ酒ヲマリタル所マデ喫ツクレバ、酒氣ノ無キ葉ヲ尋ネテ食スルナリ是レ、ヲ見テ始メテ蠶ノ酒ヲ好ムモノニアラザルトヲ知レリ、若シ強テ養蠶ノ爲

ニ酒ヲ用キント欲スル者ハ日々蠶ニ與フル酒
量ヲ僕婢へ施シテ、勉強サスルヲ養蠶豐饒ノ良
策トナスベキナリ、

⑤種繭飼ト絲繭飼トノ養方ニ差別アリト

云フ誤リノ事

世ニ種繭ト絲繭ト養ヒ方ニ差異アリト云フ者
アリ、按ズルニ養蠶ノ主意ハ絲ニナスベキ筈ノ
モノ故ニ、絲ニ製スルニモ精良ノ品ニマテザレ
バ精品ヲ得レト能ハズ、種繭ハ絲ニ繰リ惡シト
云フ者アリ、然レヒ種繭ノ良品ヲ絲ニ繰ルモノ

ナキ故ニ種繭ハ絲ニ繰リアレキト云フトナル
ベシ、如何トナレバ種繭ノ精良品ハ稀ニシテ種
繭ト雖モ種ニ製スレバ必ズ粗惡ナルモノヲ絲
ニ製スル故ニ、絲ノタチ惡シク絲目モ尠ナキ故
ニ種繭ハ絲ニ繰リ惡シト云フナリ此ノ繰リ
惡シト云フ原因ハ蠶種ニ製セントセシ蠶半
途ニシテ災害ヲ受ケ、半バ腐敗シ、且養桑ノ不足
ニテ蠶ノ性質ヨリ小ナル繭ヲ造リ、殊ニ非常ノ
厚飼ナドニ害セラレ、雨濕ノ節蠶室ノ閉塞ニテ
マブシノ乾カザルナドニテ、蠶種ニ製スレバ必

ズ粗惡ノモノト見倣ラセシハ、絲ニ製スルヨリ却テ收納減ズルノ患ヒアリス。繭ヲ絲ニ繰ル故ニ、タチノ惡シキト云フ理ナリ、養蠶ニ心ヲ用キザル者ノ誤説ト云フベシ、世俗絲繭飼ハ厚飼ニシテ養桑ヲ減シ、大眠起ノ頃最早熟蠶セントスル期ニ至リ、兩三四モ桑ヲ與フベキ若蠶ヲノコラズ拾ヒ採リテ、簇ニ入レ繭ヲ造ラスルナリ、故ニ養ヒ方足ラズシテ造リタルナレバ繭宜シカラズ、然レモ其絲繭ノ中ニモ絲ノタチノ好キアリ、惡シキアリテ、其好品ニ

猶養度ヲ盡スニアラザレバ、宜ロシキ絲繭ト云フニアラズ、假令ハ絲ニ繰リテタチノ宜ロシキ繭ナレバ、是レヲ蠶種ニ製スルトモ可ナリノ蠶種ヲ産スルナリ、絲繭ト雖モ桑ノ養度足ラズシテ宜シキト云フ理ハ決シテナキ事ナリ、平常粗畧ノ絲繭飼ナレバ、繭一升ニテ絲九匁ヨリ七八匁位ノモノナリ亦種繭飼ニ劣ラザル養ヒ方ニテ、同種類ノ精良品ナルモノヲ養ヘバ、繭一升ニテ十二匁ヨリ十三四匁位ハ絲ヲ繰ルナリ、但養蠶ハ無病壯健ナル様ニ、養法ヲ盡スニアラズン

バ、精良品ヲ産殖スルヲ能ハザルナリ、何ニゾ種
繭飼ト絲繭飼ト區別スベキノ理アラシヤ、

⑤ 出穀繭ニ精粗アル事

出穀繭ハ蠶業物産中ノ一種ナリ、予ガ郷里ニテ
ハ今ヨリ三四十年前迄ハ、銘々製スル所ノ出
穀繭ヲ以テ、真綿ニ製シテ近隣ノ互市ニ鬻ギ、業
トスルモノ多シ、天保ノ末ニ至リ、下總國結城小
塙町石川某小森河岸關澤某谷澤某等ノ三人始
メテ予カ家ニ來リテ、出穀繭ヲ買フヲ促ス、是
ハ養蠶ノ本場ト稱スル岩代國伊達郡信夫郡ノ

村落安積郡二本松近傍ニテ産スル所ノ出穀繭
ヲ年々買得テ、結城紬ト稱スルモノヲ織ルニ用
ユル處ノ真綿ヲ製シテ業トスルモノナリ、近時
島村ノ出穀繭ハ精品トシテ説ヲ聞キ、尋ネ來リシ
ト云フ、之ニヨリテ予ガ製スル處ノ出穀繭及ヒ
近隣兩三名ニテ製スル品ヲ以テ經驗ノ爲ニセ
シト賣却セリ、是レヨリ毎歲買人多クナリ、結城
ノ紬縞ヲ織ルニハ絲強クシテ如何ニモ宜ロシ
キトテ、方今我カ地方ノ出穀繭ヲ以テ一等ノ良
品ナリトシ、養蠶ノ後蠶種ノ製造ヲ終リ、節ニ

ハ、價ノ高低ヲ論セズ購求スルモノ頻々ト群集シテ島村近傍ノ十ガ八九ハ毎歲結城近邊ノ商人ニ賣却スルコトナレリ、若代國羽前國ノ出穀繭其他諸國ノ繭ヨリハ絲ノ強キト遙ニ勝ルトテ細絲ノ精工ナル紬縞ヲ製スルニハ、上毛地方利根川ノ両縁ニテ産スル物ニアラザレバ、上好ノ紬縞ハ出來ザルトテ一年一年ヨリ盛大ニ至レリ、又横濱ニ於テ外國人ニモ、我地方ニ産スル物ヲ以テ一等ノ良品ナリトテ企望セルハ、予カ平素論ズル處ノ天然ノ氣候ヲ以テ養フヲ主張

トレヨリ斯ノ如ク變化セシナレバ、新鮮空氣ノ養蠶ニ適スルノ一證トスベシ

⑤ 絲繭ノ養蠶ニ損益計算アル事

蠶ハ我國物産ノ第一タルコトハ人ノ能ク知ルトコロナリ、ソノ養蠶ヲ起立スルニ二道アリ一ハ農業ノ餘暇ニテ蠶業ヲ勤ムレバ其地方ノ農家ハ必ズ利スルナリ、如何トナレバ養蠶ハ宅中ニ産スルナレバ、工業ニ髣髴タルモノト云フベシ、水邊山村ナドノ荒蕪ノ地ニテ五穀熟セザル地ニ桑ヲ植へ、且ツ桑苗トテモ人々自カラ仕立置

キテ耕作セル暇マニ培養シ、男子ハ耕地往復ニ
 モ養蠶中ハ其業ヲ勤メ、婦女子ハ家内ニアリテ
 晝夜共養蠶ヲ勉強ス、彌蠶ノ大眠起頃ヨリ家内
 中舉テ蠶事ニ從事スレバ、厩カニ十有日ニシテ
 蠶繭トナルナリ、豐熟スレバ其勉強ノ賃錢ヲ得
 メク、違作スレバ又損毛スルヲ速ナレバ、養方ノ
 精粗ヲ辨フベキ事第一也、桑ハ多ク植ユルトモ
 蠶ノ室ニ過グル程ヲ養フベカラズ、必ズ粗品且
 ツ違作スルノ基トナルナリ、故ニ各家ノ蠶室ヘ
 應ズル量ヲ考ヘテ、百發百中豐熟スルノ理ヲ極

メテ養蠶ヲ業ト成サバ必ズ利潤アルモノナリ、
 亦蠶終レバ婦女子ハ農業ノ閑ヲ得、且雨天ニド
 ニハ、絲ヲ繰リ、絹絲ノ分ハ絲ニテ賣却シ、皮ムキ
 絲ノシ絲シケ絲ナド、地方ニヨリテ名ハ異ナレ
 ドモ、絹絲ヲ操ル節ノ屑絲并ニ玉繭トテニツ入
 ノ繭ニテ繰リシヲ玉絲トテ、近來流行セル所ノ
 上野ノ産物太織縞ト唱フル機ニ織リ、極ノ屑繭
 ハ真綿ニ製造スルナリ、殊ニ養蠶中桑ノ葉ヲ採
 リシ枝ハ常ノ薪トナシ、蠶糞ハ桑田ノ肥トナシ
 テ、農家ノ職業ニ勉強セバ、實ニ不朽ノ活計ト云

フベシ
 第二ハ養蠶ヲ商法ニ起ストキハ、縦令バ桑樹ニ
 適當セル大ナル開墾地アリテ、一名、二名、或ハ數
 名相盟フテ會社ヲ起立セルトモ、先ツ人夫ヲ買
 上ゲ、荒蕪ノ地ヲ開墾ナシ、桑苗ヲ買入レテ植付
 ケ、蠶室ヲ建築シテ養蠶スベシ今其費用ノ概略
 ヲ左ニ記ス、

蠶室建築桁行十二間、横間五間、二階付、此坪數
 六十坪、凡見積リ一坪ニ付金二十圓也
 積金一千二百圓也

此蠶室ニテ原種凡十二枚半、原紙一枚ニ付
 凡四十籠ノ積リ、

原蠶種十二枚半也、
一枚ニ付 金一圓五十錢ツ、

積金十八圓七十五錢也

蠶籠七百枚也
一枚ニ付 金六錢二厘五毛ツ、

積金四十三圓七十五錢也

蠶筵一千枚也
十枚ニ付 金四十三錢七厘五毛ツ、

積金四十三圓七十五錢也

養蠶棚 四十八組
一組ニ付 金六十二錢五厘ツ、

積金三十圓也

養蠶器械取交 見積數品

積金五十圓也

荒蕪，地凡四町步

是ハ荒蕪ノ地ナレバ無代價ト見
做シ開墾入費一反ニ付金五圓也

積金二百圓也

桑苗五萬六千本也

百本ニ付金三十錢ツ、一反ニ付七百株
一株ニ二本宛植ヘ一反ヘ一千四百本也

積金百六十八圓也

四町步畑耕耘

一反ニ付一ヶ年金三圓五十錢ツ、ト
見ナラス

積金百四十圓也

養蠶婦人二十五人

一人ニ付四十日トシ一千人一日ニ付
金二十錢也但シ食料共

積金二百圓也

養蠶中男子十人

人ニ付四十日間四百人一日ニ付
金二十五錢也但シ食料共

積金百圓也

寄

金二千百九十四圓二十五錢也

此利子一箇年一割トシテ

但シ一ヶ年ノ利子ニテハ始メヨリ
養蠶成繭デハ不足ナレバ一ヶ年ノ
概略ヲ記スルナリ

金二百十九圓四十二錢五釐也

合金二千四百十三圓六十七錢五釐也

右ハ蠶室建築ヨリ諸器械ニ至ルマデ悉皆計算

スト雖モ概略ノ積リナレバ實地施行スルハ

猶宜シク斟酌スベシ今論スル所ハ此ノ標準

右ノ蠶室ニ於テ、養蠶豐熟シ、成繭スル處ノ大概
畧ヲ左ニ記ス、

蠶種十二枚半飼立 一枚ニ付繭一石ツ、也
成繭總數十二石五斗也 一斗ニ付金二圓五
十錢ツ、トシ
此代價三百十二圓五十錢也

是レヲ絲ニ製スレバ入費等モアレハ、絲ニテ代
價ヲ積リテモ、繭ニテ價格ヲ立ツルモ同様ナレ
バ、繭ノミニテ絲製ノ利害得失ハ此ノ理ヲ以テ
知ルベシ、右養蠶起立ノ雜費ト、一箇年産殖スル

繭ノ代價ト相乗除シテ資本ノ金二千百。一圓
十七錢五厘也斯ノ如クナレバ商法ニ養蠶ヲ起
セバ、益ヲ得ルヲ甚難シ、故ニ絲製ノ養蠶家ハ農
業兼務ノ職業タルヲ是ヲ以テ判然タリ、故ニ養
蠶ノ國益タルハ第一道ノ理ヲ以テ施スベキナ
リ、第二道ノ如ク商法ニ養蠶ヲ起セバ必ス利
ヲザルナリ、近世養蠶ヲ開業セルモノ多シト雖
モ素ヨリ利益ヲ得、活計ノ目途トナスナレバ、荒
蕪ノ地ヲ開墾シテ、桑ヲ植ユルニ如カズト雖モ、
地理ヲトスルヲ第一トス、先ツ砂礫ノミニテ潤

澤ナキ地、或ハ赤土ナドニテ枯瘦セシ地ニ肥糞ヲ用キザレバ、桑ノ繁殖セザル土地ニ桑ヲ植ヘ、肥ナドヲ多ク用キテ養蠶ヲナシ、成繭ノ後絲ニ製シテ賣却シ、亦ハ繭ニテ賣ルトモ開拓ノ費用ト、肥ノ料且ツ人夫ノ貸錢等ニ比較スレバ却テ損失ス故ニ地質ノ潤澤ト養蠶ニ適スルヤ否ヲ探知スルニアラズンバ、開化ノ進歩ヲ妨グルノ弊害アラシ、故ニ輕卒ニ養蠶ヲ開業セハ、必ス損失ヲナスモノ多カルベシ、

明治五年壬申三月 皇后宮養蠶御試験

事

附 海邊ニ養蠶ハ豐熟セザルモノト衆

人ノ疑フヲ論ズ

海邊ニ養蠶ハ熟セザルモノト思ヒ、殊ニ養蠶ハ各地ニ應ズルモノニアラズ、桑田ハ海邊ニ利アラズナド舊弊ヲ唱ヒ、海邊ニテ一度モ養蠶ノ試験セザルモノ迄真ニ鹽氣ノ風ハ蠶ニ害アルモノト疑フ者多シ、明治四年辛未ノ四月

皇后宮吹上御庭ノ新御茶屋ニ於テ養蠶御試験被爲在、翌壬申三月モ亦新御茶屋ノ外ニ養蠶室

ヲ御新築ニ相成リ、養蠶三百籠程御試験アラセラルル就テ、養蠶ニ熟練ナル婦人、并ニ男子ノ指揮スル者養蠶器械等ニ至ル迄、奉出スベキ旨舊態谷縣廳へ御沙汰アリ即チ縣廳ヨリ余ニ御用向ノ儀申付ル條、御差支ノ儀無之様勉勵可致旨命ゼラル、ニ因テ直ニ出京イタシ宮内省へ伺候セシニ養蠶掛リノ長官ヨリ養蠶三百籠分ト原種ノ量ヲ定メ、蠶婦人員養蠶ヲ指揮スル者ノ人員蠶室新築ノ繪圖器械及ヒ桑葉運送ノ人夫ハ別途トナシ、總テ差支ナキ様別紙ニ認メ可差出

トノ命ニヨリ、予ガ郷里ヨリ養蠶差圖方一名栗原茂平、蠶婦田島平内妻ひさ、同多平娘多やう、關口小平次娘いぬ、栗原惣平娘ひさ、栗原九平娘いぢ、栗原三郎平娘あき、永井彦太郎娘あい、宮崎有敬娘ゆう、宮崎傳三娘多、栗田重平娘よ志、田島彌三郎娘おき、田島彌平娘多、都テ十二名撰擧シ三月十四日島村ヲ發シ、利根川ニ舟ヲ汎メテ登ラレム、東京ハ亦海邊ノ一端ナレバ、養蠶ニ利害ノ試験ニハ實ニ好機會ナレバ不肖多み女ニ懇々注意シテ遣セシニ、養蠶ノ發生ヨリ熟蠶ノ

期ニ至リ、悉ク豊穰成滿セシ日誌ヲ携ヘテ歸レ
 リ、是ニ由リテ之ヲ見レバ海邊ニ養蠶ノ應ゼザ
 ルノ理ハ曾テアルマジキ事ナリ、今左ニ養蠶御
 掛リ官員ノ姓名器械上納ノ記并ニ養蠶検査表
 ヲ録シテ以テ有志者ノ徒ニ示ス

宮内省養蠶御掛リ

- 正四位少丞 世古延世
- 權大錄從七位 中川元續
- 少錄 山室邦陰
- 内舍人 岡本定清

權内舍人

- 廣庭祐受
- 鈴木真平
- 三宅季都
- 藤田房教
- 上田菊藏
- 下野龜藏
- 谷北兼三郎
- 川端平兵衛

直丁

御親蠶御用ニ付器械上納ノ記

一 養蠶籠 三百枚

一 同 筵 六百枚

一 蠶 棚 三十組

一 粗 糠 ふろひ 三ツ内小目ふろひ一ツ

一 桑 切庖丁 二挺

一 砥 石 大一ツ

一 同 小五ツ

一 羽 蓆 二本

一 木 鉢 二十枚

一 大 俎 二枚

一 粗 糠 二十俵 八斗入

一 粟 糠 二斗 大小

一 桑 笈 十五

一 床 机 七ツ 俗ニ桑クレ臺

一 竹 簣 六枚

一 桑 切鎌 十挺

一 蠶 網 十足 但レ切斷レテ 二百四十枚トナス

一 寒 暖計 二個

一 桑 覆筵 四十枚

一 踏 繼臺 三脚

燭臺	五	燭臺
手燭	五	ツ
竹長持	五	棹
桐油	五	枚
油篋	五	ツ
簇	千五百六十	
笠	五	ツ
蓑	三	ツ
合羽	二人前	
粹火鉢	二	ツ

- 一 蠶紙 五十枚
- 一 桑モギ庖丁 十 挺
- 一 押切り 一 挺

養蠶検査表

養蠶ノ量ハ別途ニ記サズ

北海道石狩國産蠶種三枚

上野國佐位郡島邨産蠶種三枚

明治五年 壬申三月	晴雨	寒暖	養度數	養育人員	虫ノ量	裏採取捨
十五日全	快晴		五 ^桑 度	差圖方 栗原茂平	五 ^子 種掃初	
			五 ^全 度	全	五 ^子 種二番 掃立ル	

三六 石狩國産蠶種

續養蠶新論 卷二

十六日	朝曇リ 夕方小雨	六十度	全	全	全	上州種 一番掃立	上州種ノ 一番紙又キ
十七日	終日曇天 夕方雨	六十度	全	全	全	エゾ種 三番掃立	上州種ノ 紙又キ
十八日	終日雨天 夕刻晴	六十度	全	全	全	エゾ種 四番掃立	エゾ種 紙又キ
十九日	終日 大雨	六十度	全	全	全	上州種 三番掃立	
二十日	朝雨 晝ヨリ晴	五十八度	全	全	全	エゾ種 五番	新蠶室ニ 蠶ヲ移ス
廿一日	快晴	六十一度	全	全	全	エゾ種 未掃	
廿二日	陰午時ヨリ 小雨	六十度	全	全	全		

廿三日	皇太后宮様 蠶室御遊覽	晝ヨリ晴	六十八度	全	全	十四日掃 エ印一	エ印十四日掃 ウラ採リ
廿四日		半快 半陰	七十度	全	全	十五日掃 エ印二	エ印二 休ウラヲ採ル
廿五日		快晴 夜入大雨	七十度	全	全	十六日掃 エ印三	休ウラヲ採ル 上州種一 十六日掃 ウラ採リ
廿六日		快晴	六十八度	全	全	十六日掃 エ印三	上州種一 十六日掃 ウラ採リ
廿七日		終日雨	六十度	全	全	全	エ印十四日掃 ウラ採ル
廿八日		陰	六十度	全	全	全	エ印十四日掃 ウラ採ル

續養蠶新論

卷二

三十七

桑柘園

二十日	快晴冷氣								十六日掃 上州種一船起 一万二千頭	十九日掃 工印 午時ツリ桑
廿一日	快晴 朝冷氣	五十四度 火力ヲ用ユ							十七日掃 工印四 船ノ起 二千頭	十九日掃 工印 夜桑付
廿二日	快晴順氣								十七日掃 上州種二 起ウラサ 四万九千頭	十九日掃 上州種三 午時ツリ桑
廿三日	朝快晴 夕方雨夜入大雨								十四日掃 工印 度休 八百頭	廿一日掃 上州種四 朝桑留
									十五日掃 工印二 千頭入七籠	廿二日掃 工印六 夜桑付
									廿三日掃 工印 三千九百頭	廿三日掃 上州種五 朝桑留
									廿四日掃 上州種三 船起ニテ 四万五千頭	廿四日掃 上州種一 中ウラ採
									廿五日掃 上州種 早五百頭入七籠	十四日掃 工印一 午時ツリ桑
									廿六日掃 上州種 早五百頭入二籠	十五日掃 工印一 夜留桑
									廿七日掃 工印三 度休 千頭入五籠	十四日掃 工印一 朝桑付
									廿八日掃 工印二 夜ノリ桑	十五日掃 工印二 朝桑付
									廿九日掃 工印一 夜ノリ桑	十六日掃 工印一 朝桑付
									三十日掃 工印一 夜ノリ桑	十七日掃 工印一 朝桑付
									三十一日掃 工印一 夜ノリ桑	十八日掃 工印一 朝桑付
									三十二日掃 工印一 夜ノリ桑	十九日掃 工印一 朝桑付
									三十三日掃 工印一 夜ノリ桑	二十日掃 工印一 朝桑付
									三十四日掃 工印一 夜ノリ桑	廿一日掃 工印一 朝桑付
									三十五日掃 工印一 夜ノリ桑	廿二日掃 工印一 朝桑付
									三十六日掃 工印一 夜ノリ桑	廿三日掃 工印一 朝桑付
									三十七日掃 工印一 夜ノリ桑	廿四日掃 工印一 朝桑付
									三十八日掃 工印一 夜ノリ桑	廿五日掃 工印一 朝桑付
									三十九日掃 工印一 夜ノリ桑	廿六日掃 工印一 朝桑付
									四十日掃 工印一 夜ノリ桑	廿七日掃 工印一 朝桑付
									四十一日掃 工印一 夜ノリ桑	廿八日掃 工印一 朝桑付
									四十二日掃 工印一 夜ノリ桑	廿九日掃 工印一 朝桑付
									四十三日掃 工印一 夜ノリ桑	三十日掃 工印一 朝桑付

廿四日	朝曇大南風暖 氣十二時ヨリ大 雨夜入西風ナル								廿三日掃 工印 三千九百頭	廿三日掃 上州種未
廿五日	快晴 大西風 冷氣								十五日掃 工印二 千頭入七籠	廿三日掃 上州種未
廿六日	快晴朝冷氣 十二時ヨリ暖氣								廿三日掃 上州種 早五百頭入七籠	十四日掃 工印一 午時ツリ桑
									廿六日掃 上州種 早五百頭入二籠	十五日掃 工印一 夜留桑
									廿七日掃 工印三 度休 千頭入五籠	十四日掃 工印一 朝桑付
									廿八日掃 工印二 夜ノリ桑	十五日掃 工印二 朝桑付
									廿九日掃 工印一 夜ノリ桑	十六日掃 工印一 朝桑付
									三十日掃 工印一 夜ノリ桑	十七日掃 工印一 朝桑付
									三十一日掃 工印一 夜ノリ桑	十八日掃 工印一 朝桑付
									三十二日掃 工印一 夜ノリ桑	十九日掃 工印一 朝桑付
									三十三日掃 工印一 夜ノリ桑	二十日掃 工印一 朝桑付
									三十四日掃 工印一 夜ノリ桑	廿一日掃 工印一 朝桑付
									三十五日掃 工印一 夜ノリ桑	廿二日掃 工印一 朝桑付
									三十六日掃 工印一 夜ノリ桑	廿三日掃 工印一 朝桑付
									三十七日掃 工印一 夜ノリ桑	廿四日掃 工印一 朝桑付
									三十八日掃 工印一 夜ノリ桑	廿五日掃 工印一 朝桑付
									三十九日掃 工印一 夜ノリ桑	廿六日掃 工印一 朝桑付
									四十日掃 工印一 夜ノリ桑	廿七日掃 工印一 朝桑付
									四十一日掃 工印一 夜ノリ桑	廿八日掃 工印一 朝桑付
									四十二日掃 工印一 夜ノリ桑	廿九日掃 工印一 朝桑付
									四十三日掃 工印一 夜ノリ桑	三十日掃 工印一 朝桑付

續後醍醐天皇實錄 卷二 四十一 桑柘園裁取

廿七日	快晴暖氣	五度	全	十九日掃 庭休 工印十六籠 廿一日掃 工印六籠 廿二日掃 工印八籠 廿三日掃 工印四籠 廿四日掃 工印二籠 廿五日掃 工印一籠 廿六日掃 工印三籠 廿七日掃 工印四籠 廿八日掃 工印五籠 廿九日掃 工印六籠 三十日掃 工印七籠
廿八日	快晴順氣	五度	全	十九日掃 庭休 工印十六籠 廿一日掃 工印六籠 廿二日掃 工印八籠 廿三日掃 工印四籠 廿四日掃 工印二籠 廿五日掃 工印一籠 廿六日掃 工印三籠 廿七日掃 工印四籠 廿八日掃 工印五籠 廿九日掃 工印六籠 三十日掃 工印七籠

廿九日	晴順氣	五度	全	十九日掃 庭休 工印十六籠 廿一日掃 工印六籠 廿二日掃 工印八籠 廿三日掃 工印四籠 廿四日掃 工印二籠 廿五日掃 工印一籠 廿六日掃 工印三籠 廿七日掃 工印四籠 廿八日掃 工印五籠 廿九日掃 工印六籠 三十日掃 工印七籠
三十日	陰夜大雨	五度	全	十九日掃 庭休 工印十六籠 廿一日掃 工印六籠 廿二日掃 工印八籠 廿三日掃 工印四籠 廿四日掃 工印二籠 廿五日掃 工印一籠 廿六日掃 工印三籠 廿七日掃 工印四籠 廿八日掃 工印五籠 廿九日掃 工印六籠 三十日掃 工印七籠

鳥邨種 三枚

繭 三石八斗八升

内 上繭ノ分 二石九斗八升

玉繭ニ
中繭 九斗 此分綿繭トス

蝦夷種 三枚

繭 二石一斗六升

内 上繭ノ分 一石六斗六升

玉繭
中繭 四斗六升 此分綿繭トス

總繭數 六石〇四升

内 真綿ニ製スル分 一貫百九十六匁也

尋ジケナクモ養蠶御用相勤メタル御褒賞トシ
左ノ通頂戴イタセシ御書付ノ寫

多美

亮佐

亮佐

以老

望う

魚以

よ志

三ツとみ

法可法身寺組

一 右はこへ寺組ツ、

多々々入寺組

い き
わ き
た い
ゆ う
あ い

右吹上御庭におお多き法入御用滞
多く相法を免け付打まはり滞事

壬申五月

右御養蠶成繭ノ上、綸子羽二重兩品御織立被遊
候事ニ相成ル綸子羽二重ハ上野國勢多郡花輪
村近邊ノ山中ヨリ産出スル所ノ絲ヲ好シトス
ル故ニ、舊熊谷縣へ命ゼラレ勢多郡村々ヨリ製
絲工女御呼出シアリ、

- | | | |
|------|--------|-----|
| 花輪村 | 星野源五郎妻 | みぢ女 |
| 同村 | 關口重平母 | 以勢女 |
| 小夜戸村 | 大木熊吉女 | およ女 |
| 同村 | 星野万藏妻 | おち女 |
| 花輪村 | 中澤熊吉母 | てる女 |

同	村	小倉嘉	吉妻	ら々女
同	村	村田要	作母	志子女
同	村	高瀬彌	吉妻	えと女
下田澤村	新井權	衛女	ふさ女	
同	村	小林半	造女	久尔女
同	村	關澤丑	藏女	雪子女
下田澤村	婦人	世話方	新井鼎作	

右婦人十一名ノ者東京ニ於テ養蠶セシ繭ヲ以テ製絲ヲ命ゼラレ、若シ綸子羽二重ヲ織ルニ宜

レハラザル絲ヲ製スレバ、我々共ノ面目ヲ失シ且、不注意トナリ耻ヅル處ナリトノ、掛念ニテ上可花輪ハ從來綸子羽二重ニハ絶品ノ製絲ヲ産スルナレバ、他方ニテ製スル事ハ容易ナラヌモノ、一思ヒ銘々手ヅカラ製スル處ノ良品ナル絲一二操ヅ、搗ヘテ、同ク五月吹上ノ新御茶屋へ出仕スルニ、蠶婦共ノ兼テ撰ミ置タル繭ヲ以テ操絲ヲ命ゼラル、ニ、其繭ノ精良ナルヲ真ニ驚ニ堪タリト云フテ、是迄多年製絲ヲ業トナセドモ斯ノ如キタチノ能キ繭ヲ取扱フタルヲ夏

ニナレ、殊ニ絲色美ニシテ比類スベキモノナレト、彼ノ見本ニセント攜ヘタル絲ニ比較スルニ、二三等モ優リタルニ由リテ、全ク養蠶方法ノ宜ロシキヲ盡セシ故ナルベシ、又東京ハ養蠶適當ノ地理トモ云フベキナリト、一タヒハ喜ビ一タヒハ恐レ、一同感服セシ、トヲ養蠶差配方栗原茂平ノ目撃スル處ノ説ヲ録シテ、海邊ニ養蠶ノ應ゼザルト云フハ誤リナル事ノ明瞭タルヲ知ラシム、

續養蠶新論卷二 終





群馬県立図書館



0238123-4

群馬県立
図書館